

仕事と介護に関する従業員ニーズ調査結果

1. 現在の従業員の介護状況、介護対象者の有無について

全員、過去に介護経験はなく、現在も介護をしていない。

2. 今後の従業員の介護見込みについて

全員、今後5年間のうちに家族・親族を介護する可能性が少しあり、介護することについて「非常に不安を感じる」「少し不安を感じる」と答えている。

介護に関する不安は、具体的に

- ・ 公的介護保険制度の仕組みがわからないこと
- ・ 介護休業などを職場で取得して仕事をしている人がいないこと
- ・ 適切な介護サービスが受けられるかどうかわからないこと
- ・ ほかに介護を分担してくれる家族がいないこと
- ・ 介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくいこと
- ・ 公的介護保険制度の要介護者となった場合、どのような状態になるのか予想がつかないので、漠然とした不安がある

という内容だった。

3. 就業規則、規程内の介護関係制度に関する認知状況について

今年度初めに就業規則・介護休業規程等を整備し、規程集を全社員に配布しているので、制度があるということは知っていても、詳細な介護関係制度についての認知度はまだ低いように思われる。

4. 仕事と介護の両立に関する不安について

介護をしながら現在の勤務先で仕事を続けることができると思えますかという質問には、続けられると思う従業員が約3割、残りがわからないと回答している。

介護のことについて職場の上司や同僚に話したり、相談したりすることができる雰囲気が職場にありますかという質問には全員が「ある」と答えていて、社内コミュニケーションは円滑である。

5. 介護が続いた場合の望ましい働き方及び社内制度について

介護することになった場合には、介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護を両立することを全員が希望している。

一方で、公的介護保険制度のことについて知識がない従業員が多く、公的な相談窓口である地域包括支援センターについて名称も利用方法も知らないと答えた従業員が6割だった。社内制度と合わせて、公的制度や相談窓口についても周知する必要がある。